

岐阜県視覚障害者の教育と福祉を進める会

〈設立〉

「岐阜県視覚障害者の教育と福祉を進める会」〈通称「進める会」〉は、昭和59年度（昭和60年2月2日）に岐阜市中央青少年会館で設立総会を開き、開設されました。当時の富田則武元校長によれば、「盲学校 PTA 会員が、高等学校の感覚からすると極めて少なく、活動も弱かったために、盲人協会の藤井成幸氏に発起人になっていただき、視覚障がい者の教育とさらなる振興を目指して設立された。」とのこと。設立に向け 前年度から準備が進められ、設立総会では、設立の趣旨説明、会則、役員承認などが行われました。（岐阜盲学校百年史252ページ）

〈経緯〉

「進める会」の特徴は、当初から視覚障がい教育への支援と視覚障がい福祉の支援を中心課題として取り組まれていることです。富田元校長は「福祉作業所等の設立要望が強く、今でも記憶に残っていますが、具体的な支援方法が分からず、結果的に、学校への支援が中心となってきた」と述べられています。

〈現在の活動〉

例年の活動としては、年2回（10月、3月）の会報の発行と、6月に理事会・代議員会を開催し、役員改選や予算・会計報告、活動方針等を決定しています。会員数は約100人で、岐阜盲学校の保護者・教職員・同窓生・岐阜県視覚障害者福祉協会役員等が賛同者となっています。時に一般県民・民間篤志家の方から資金援助もしていただいています。「進める会」の具体的な支援内容としては、岐阜盲学校同窓会や、福祉施設運営等への支援、障がい者スポーツ・文化・芸術行事への援助等を行っています。